



大阪日々新聞紙 第11号

下總の國濱村
 日置喜左衛門の
 下女おひさの今年二十ニイッあつら明治
 八年の四月二十日留小急病發り至者の
 葉も早速みせりあつらあつら木綿帯
 祥きてやうと事あつら白文長の
 おひさもあつら二命を落しとやう
 親を呼ぶ引渡り盡し手
 織のあつらしを語るも跡前
 くれと布子の袖ぬき見せり
 翌日野辺送りいとあつらんとそれく手配り棺小舎を
 通夜深くと更きつらあつら棺が動き出しやがて蓋
 をお押し明けて死人が立つ立上る小一坐の騒動出る
 腫が抜けると大亦あつらと撫庄の後の次はあつら
 病氣全快せし鳴の續賣半九号不願る

花源誌

明治二十一年
 錦畫板
 形後下

大阪錦画日々新聞紙11号 文庫10-8068-9

早稲田大学図書館蔵 / Waseda University Library

